



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
大 洞 利 雄
☎35-9416
印刷所
龍共印刷株式会社



子育て拠点施設「あったかてらす」落成式

目指すまちづくりと 公民館へ望むこと

高森町長 壬 生 照 玄



2027年にはリニア中央新幹線が開通します。伊那谷全体が地域の活性化に湧き、町でも誘客に向けた動きが活発化しようとしています。私はリニア長野県駅を単なる通過駅にしないため、観光人口ではなく「関係人口」を増やすことが、今後の町の発展につながると思っています。

『関係人口』を増やすということは、高森町固有の歴史や文化、民俗芸能、景観資源を誘客の一つの手段としながら、伊那谷特有の温かい人間性やおもてなしにより、高森町へ訪れる皆さんが、「もう一度この人に会いたい」「もう一度この時間を過ごしたい」と感じ、町を第二、第三の故郷と考えていただくことです。

このような『関係人口』を増やすためには、まずは町民の皆さんが、隣近所の人たちや地域をお互いに理解し、世代を超えたおつきあいを大切に続け、普段当たり前に見ている風景や過ごしている時間がどのような価値があるのかを、私たちが

自身を再発見することが重要だと考えます。

しかし、昨今では就業形態の変化や都市的思想の広がりにより、地域への興味は薄れ、その結果、自治組織未加入や脱退、公民館活動の参加者の減少や役員のなり手不足など、多くの問題を抱える状況となっています。また、現在の公民館活動は、スポーツやシニア大学、育成会、平和推進など多岐にわたります。その結果、毎年それらの事業をこなすことに手間と時間を取られ、課題解決のための検討や地域づくり、まちづくりについて考える生涯学習の時間が減少しています。

町では4月から、これまでの「行政依頼型」のまちづくりから、この地に暮らす人たちが一人ひとりが、地域づくりを考え、実行し、町はその活動を手伝う「住民主体型」のまちづくりへの転換と、新たなまちづくりに向かうための「人づくり」を目的に、アグリ交流センターにおいて社会人学校「信州たかもり熱中小学校」を開校しました。

全国的にこの学校では、様々な世界の先進的技術などと併せ、これまでの地域での歴史や産業などを踏まえ、将来の地域づくりに関して学んでいきます。こうした「学び」は、今後の公民館活動のヒントになると思います。未来の高森町を築くのは町民の皆さん一人ひとりで、そのために、多くの町民の皆さんが、生涯学習の拠点である公民館で学び、愛郷心とともに積極的にまちづくりに関して考えていただけることを願っています。



熱中小学校の様子

館報「たかもり」への寄稿へのお願い

高森町公民館の館報「たかもり」も平成28年度に600号となりました。さらに多くの皆さんに館報を身近に感じていただくため、「読者参加」「地域密着」を方針として、町民の皆さんからの原稿を募集しています。

「日々感じていること」「このような高森町がいいね」「こういう活動をしたよ！」など、短い文章でもかまいませんので、皆さんからの原稿をお待ちしております。

さらに、イベントや季節の写真をお撮りの方は、館報に貼ってほしい！という写真がありましたら、あわせてお送りください。

また、「こういう記事を読みたい」「こんな特集は

■提出方法
①直接持ち込み ②郵送
③メール ④FAX
⑤USBメモリなど
様式等はどのようなものでも構いません。またお届け方法などはお気軽に公民館にご相談ください。

■原稿送付先
高森町公民館
〒399-1319
高森町下市田2183-1
主事【清水・池田】まで
☎35-9416
☎35-2973
✉kyoiku@town.nagano-ta
kamori.jp

三面鏡

▼先日、実家の部屋の片づけをした。すると、押し入れの中から大学時代の卒業論文が出てきた。まあ「論文」と呼べる代物ではない。数冊の本を用い、最後に自分の感想を書いただけのお粗末なものだ。それでも思い、片づけをする手を止めて少し読み返してみた。卒論のテーマは「アメリカンニューシネマと時代背景」についてだ。

▼第二次世界大戦後のアメリカは、強い経済力と軍事力を背景とした大きな影響力を持つ「世界の警察」だった。ところが1960年代から1970年代にかけて、その姿が崩れてくる。一番顕著なのはベトナム戦争だった。「世界の警察」であるアメリカが勝利できず、国内では反戦運動が高まった。

▼ここで、アメリカの映画の変遷を前述の歴史の流れと並行して見てみる。「世界の警察」であった時代のアメリカ映画で隆盛を誇っていたのは「西部劇」だ。正義の味方であるカウボーイが悪者を倒して「めでたしメデタシ」という「勧善懲悪」の内容だ。だが1970年代に入ると、少し違うタイプの映画が話題となる。「俺たちに明日はない」の主人公は正義の味方ではなく強盗のカップルであり、「イージーライダー」は自由を求め世の中からはみ出したヒッピーが主人公だ。しかも、2つの映画とも主人公は銃で撃たれ「バッドエンド」となる。

▼このように、映画はその国の時代や思想を反映している。今の日本やアメリカはどうだろう。どんな映画が流行っているのだろう。偶然出てきたメモを読んだ。そんなことをふと思った。

子どもは一冊の本である

教育長 帯刀 昇



4月より教育長を務めています。帯刀昇です。教員、教育相談員、総園長として子ども達や保護者の皆様と接してきた経験等を活かし、微力ではございますが精一杯努力する覚悟です。よろしくお願いします。

子どもは
一冊の本である
その本から
われわれは何かを
読み取り
その本に
われわれは何かを
書き込んでいかねば
ならぬ

オーストラリアのベータ・ローゼッカーの詩です。

子どもはそれぞれ、どんな本よりも「読み応え」があります。この子は今、何を考え、何をしたいのか、周りの大人達はそれを「読み取り」、新たなページに「書き込んで」いかなければなりません。

しかし、子どもの姿から「読み取る」という発想が苦手な大人が多くなっているのも事実です。分かんなくなったら、子どもをよく観ること、答えはいつも子どもの中にあるはずです。また、「書き込む」として、

やり甲斐のあることはあります。それは、保護者の皆さんと保育園や学校との共同作業です。連携を密に取り合い、個性豊かな一冊を創り上げてほしい。

子どもの話に耳を傾け、決して親が解決せず、子どもの力を信じて待つことが一番良いでしょう。子どもをよく観ることは「子育ての第一歩」です。

話は変わりますが、人間だけが生涯にわたって成長・発達が続くと言われていません。しかし、内閣府の生涯学習の調査によると参加したい活動があっても、参加していない人がかなり

います。また、参加者は女性より男性が多く、参加者の高齢化が課題となっております。これは高森町も同様です。

将来、孤立せず元気に暮らすための秘訣は「キョウイク」と「キョウヨウ」とは、

「今日も行くところがある」「今日も用事がある」です。言い換えれば社会に居場所がある、自分の出番があるということです。

公民館で行われているシニア大学や「お知らせ版」にある「生涯学習情報」は、まさにこの居

場所を提供していることにもなります。まだ参加されていない方は、思い切った第一歩を踏み出してみませんか。新たな仲間ができて、生活にも「潤い」が出てくるはずです。多くの町民の皆様の参加をお待ちしています。



心とボールのラリー

「ほたる太鼓」は「フォー」樽太鼓!!

山吹区民が中心となり開催される「天伯峽ほたる祭り」。このほたる祭りのステージ発表の中に、高森北小学校の子どもたちが演じる「ほたる太鼓」という演目がある。では、どのような経緯で、北小学校の子どもたちがこの太鼓演奏を行うようになったのだろうか。当時の関係者からの聞き取りや資料（「森光」）をもとに調べてみた。

山吹の天伯峽に舞うほたるを大切にしたいという想いから、当時の山吹区長を始めとする役員の方々と自然愛護会の皆さんが中心となり保全活動を開始し、「ほたる祭り」は平成2年から開かれていた。その中で、

ほたるを題材にした演目が

何かできないかという話になり、当時の教育長が「ほたるが舞う季節に天竜川から4つの樽が流れてきた。それを拾った子どもたちがその樽をたたくと、ほたるが舞い上がった」という伝説を創作し、そして当時公民館担当であった佐々木昌氏

が中心となり高森町の太鼓グループ「結束大地」の佐々木清氏からのご指導を受けながら原型を生み出したこと。これが当時の北小学校の校長先生の目にとまり、多くの先生方の理解と協力のもと、今の形になって引き継がれているのである。

この樽の使用についても「当時はお金もなく安価で手に入る樽を採用した。しかも、この時期は急に雨天

になることもあり高価な太鼓を使用することは難しく、雨でも音が出る樽が最適だった」という裏話も聞くことができた。

いずれにしても、今では「ほたる太鼓」として知れ渡っているが、実は「フォー」樽太鼓が正式名称であるとは少し驚きであった。

「ほたる太鼓」は教育委員会や公民館の職員が考案したものではあったが、その後、各関係者が知恵を出し合い、関わり、そして姿を変えながら学校や地域住民の中へ溶け込んでいった経緯を知ることができた。今年6月16日にお祭りが開催されるが、こんな背景を知って「ほたる太鼓」を楽しむのいかがだろうか。

祝 あったかてらす落成



子どもたちによる除幕式

「あったかてらす」 5月5日落成

昨年6月より、山吹の丸山公園横に建設中でした、高森町女性活躍子育て拠点施設「あったかてらす」が完成し、5月5日に落成式が行われました。オープニングセレモニーは「キッズ彩」による太鼓演奏が行われ、主催者のあいさつでは壬生町長より「福祉センターの老朽化に伴い国、県よりご支援をいただき、地域の子供の支援施設としてここを拠点に遊びや学びなどきめ細かい支援を充実させていきたい」との話がありました。応援宣言では中学校の正副会長と、子育て中のお母さん達により「みんなの未来全力応援宣言」が力強く宣言されました。園

児達と共にテーブルカットの後、看板除幕式と続き、最後は吉田・山吹保育園園児によるダンスで閉会しました。「あったかてらす」は、出産・子育てを支援します。出産や子育ての不安や悩みを解決し、安心して子育てができる町づくりを実施する拠点施設です。外観は、景観まちづくりに基づき周辺との調和に配慮した色合いになっており、広域農道より少し後退した位置に建てられています。施設内は広いプレイルームと相談室、健診室、おやすみルームなどがあり、プレイルームにはスベリ台や巨大マット、サイバーホールなどの子供が楽しく過ごせる遊具が

たくさん並んでいます。二階のコワーキングスペースは女性就業支援事業の一環で仕事場として提供されるこの事です。フロア全体は柔らかな素材でできており、転んでも怪我が無いように配慮されています。一階のテラスや、二階のコワーキングスペースからは隣の丸山公園や遠く南アルプスが望め、開放感溢れるスペースです。高森町民だけでなく他地域からの利用もできます。

【利用期間】

6月1日～8月31日

【利用時間】

朝9時30分～夕方5時

【休館日】

毎週木曜日・日曜日



北小学校の子どもたちによる「ほたる太鼓」

歴史と魅力ある公民館報

編集部長 上沼 徹 (下市田一区)



本館編集部長を務めます下市田一区の上沼です。編集部員の皆さんと共に、よい公民館報づくりに取り組んで参りますのでよろしくお願ひします。

公民館報は、高森町が誕生した昭和32年に第1号が発行され現在600号を越えました。館報は60年余の

歴史と共に、人々の支え合い、地域と共に生きる姿を映し出してきました。当町公民館が目指す役割「まなび」「つどろ」「むすぶ」。地域住民が生きがいを持つて活動できるよう、地域のかわら版として今後も魅力ある情報を発信していきたいと思ひます。

過去の記憶と記録を映像に

視聴覚部長 林 勝朗 (大島山)



平成最後の年となる30年の新年度が始まりました。視聴覚部の事業は例年通り、撮りためてある保存作品のメディア変換保存作業と文化祭のデジタルフォトカレンダーの制作が大きな柱となります。皆さんと触れ合えるのはカレンダーの制作の時です。秋のふるさと祭

の読経・焼香となりました。この日はドローンでの撮影も行われ、不動滝の意外な姿を見ることができました。下から見上げる不動滝は、岩肌がほぼ垂直にそびえ、真っ直ぐ下に水が落ちていくように感じますが、ドローンでみる映像では意外にも傾斜があり、水が岩肌に添って滑るように落ちる様子がみえてとれました。また、山深い森林の間から見える滝は荘厳であり、本高森山を水源とする広大な山々の雄大さもあらためて感じる

ことができました。

その後、本尊薬師如来出現の地『間の洞』(あいのほら)と、瑠璃寺本堂右にある小滝(不動滝を模した)にて、同じように供

行われる不動滝祭だけが残るかたちとなり現在に至っています。

不動滝について

大島川の上流にある不動滝は、長野県自然百選にも選ばれており、高さ50メートル、幅10メートルと、その規模は伊那谷随一といわれています。滝の上は千畳敷と呼ばれる岩床があり、そこから豊富な量の水が流れ落ちていきます。高森町の町名の由来となった本高森山(標高1,889メートル)を水源とする千水ノ沢(ひすいのさわ)と本沢が合流する場所、大島川として流下する天竜川へと続いています。300年前のひつじ満水の際には、この川が氾

がなく、観音僧都が祀ったものかどうか不明となっています。

不動滝にまつわる伝説

不動滝には『雨乞いの青獅子』の伝説があります。

―そのむかし、瑠璃寺を訪ねて京の都からやってきた仏師が、住職からの依頼を受け、獅子舞の獅子頭を制作することになりました。不動滝にて滝行をしつつ、百目目について獅子頭が完成しました。ところが、納得のいく出来映えではなかつたというのです。―

大島山の雨請い行事

打続くひでりに天を仰いで長嘆している頃、大島山では最後の頼みの綱として青獅子を出し、全区民こぞって雨乞いの行事に参加した。八月二十五日午後四時半、人々は手に手にタスマツを持って瑠璃寺に参集した。青獅子は薬師堂前に安置され、住職により秘法を修した後全員で不動滝に向かった。赤々とタスマツをともし、丹誠をぬきんでて雨請いの行事を厳修した。不思議なるかな同夜夜半、黒雲にわかに天をおおい、慈雨を恵んだのも誠にあらたかな靈顯(れいげん)であった。

―昭和24年9月1日発行 市田村報より抜粋―

文化祭を盛り上げよう

教養部長 宮下 誠 (山吹電口)



平成30年度の教養部長を務めることになりました。部員の皆さん、事務局の絶大なるお力添えをいただき事業を行いたいと思ひます。

さて、教養部の事業として11月のまるごと収穫祭における文化祭と1月の成人式があります。文化祭では、作品展示、ステージ発表を

通じて日頃の成果を発表する場の提供、部員による手づくり体験を行います。大勢の方に足を運んでいただきければ幸いです。成人式の準備、運営にも携わります。部員一丸となって取り組みますのでご理解とご協力をよろしくお願ひします。

地域みなさんと共に

公民館主事 池田 晶代



4月より公民館主事としてお世話になっております池田晶代と申します。

公民館に関わらせていただき1か月が経ちましたが、初めての分野ばかりで戸惑うことも多く勉強の毎日です。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【浄水場上付近】にて旗竿を立てました。ここは創建当時、瑠璃寺のお堂(薬師堂)があった場所、お堂の跡地には薬師様・不動様が祀られています。新緑と鳥のさえずりの中、瑠璃寺住職さんおよび檀家の皆さんと、光明寺の住職さん、光明寺の純豆(じゅんせ)くん(小学5年生)も参加され、の総勢18人にてお供物・読経・焼香を行いました。

次に不動滝に移動し、流れ落ちる滝を横目に石をつたって対岸に渡り、岩の中腹に祀られている不動様にお供物をお供しました。前日の雨で水量が増しており、水しぶきを浴びながら

また数年前、小中学生を対象に瑠璃寺の客殿にて「雨乞いの青獅子」の読み聞かせを行っていた際、青獅子を見たいという子どもたちが箱を開けると、空がにわかにかき曇り始め雨がポツポツ降り始めたので、みんなしで驚いたと同時に、住職さんが慌てて箱を閉めたという話があったそうです。雨乞いの青獅子伝説は今も息づいているに違ひありません。

町の将来に繋がる活動を

体育部長 木村雅俊 (下市田四区)



このたび公民館体育部の部長に選出されました木村と申します。一年間どうぞよろしくお願ひ致します。

これまで事業の主体であった町民運動会が昨年度で無事終了するまでの間、町民の皆さんからは多くのご意見を頂きました。既存のワンバウンドふらばーバレー、スローピッチソフト及びベ

タンク大会を含めたスポーツ事業の在り方を考え、内容や実施方法を模索することは当面の課題と云えます。

町民の皆さんにはこれからも公民館活動へのご意見ご協力をいただきつつ、町の将来像に繋がる一助となるよう体育部一同努めて参ります。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。

不動滝祭り開催

不動滝祭の由来

不動滝祭が始まった時期等は定かではありませんが、平成の初頭ごろから開催されていた「ファミリーウォーキング大会」のコースに、瑠璃寺や不動滝が含まれていたことから、この大会とお祭りが一緒に行われていた時期もあったようです。かつては境内に小店や露店が立ち並び、大変賑わったと同時に、町民の楽しみの一つでもあったようです。ファミリーウォーキング大会が中止となると、出店や露店は姿を消し、瑠璃寺で執り

物・読経・焼香をして一連の法要が無事終わりました。

【浄水場上付近】にて旗竿を立てました。ここは創建当時、瑠璃寺のお堂(薬師堂)があった場所、お堂の跡地には薬師様・不動様が祀られています。新緑と鳥のさえずりの中、瑠璃寺住職さんおよび檀家の皆さんと、光明寺の住職さん、光明寺の純豆(じゅんせ)くん(小学5年生)も参加され、の総勢18人にてお供物・読経・焼香を行いました。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。

公民館は地域の協力をいただきながら、地域みなさんと共に活動することが多い部署であると聞いております。今後、地域みなさんと一緒に活動する機会が多くあると思ひますが、皆さんの方と交流できることを楽しみにしています。

ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも地域みなさんのお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひします。



きらっ人
高森

平昌パラリンピックに出場して

熊谷昌治さん(牛牧)



開会式での日本選手団

私にとって初めてとなるパラリンピックは、楽しみと緊張の半々な気持ちで迎えました。パラアイスホッケー日本代表チームは2大会ぶりのパラリンピック出場ということで、沢山の報道関係者に取材をしていただき個人的にも期待に応えようと必死でした。

場所に住れることを思いっきり楽しみながら入場行進しました。

選手村では、普段見慣れない視覚障害の選手や、腕を欠損した選手、車椅子の選手などが居て、すれ違うたびに挨拶を交わし、これもパラリンピックの世界なのだと感じました。

そして緊張の中迎えた韓国との初戦、観客席は韓国応援団に混じり、日の丸も見えました。このとき私の家族も来てくれていたのですが、広い会場で探すことができずに試合が始まりました。世界ランクが上の相手に必死で攻め、守りまし

たが、残念ながら勝利することはできませんでした。それでも意地の1得点に絡むことができた、負けはしませんでした。試合後、家族に会える場所に行き顔を合わせたとき、自然と涙が溢れてきました。私の目標の一つであった「家族をパラリンピックに連れて行くこと」が叶った瞬間でもありました。私が事故で落ち込んでいたとき弱い姿を見せてしまいましたが、そんな中スポーツに出会い、いつか「必ずパラリンピックに出るんだ」とトレーニングに励み夢を追いかけていたアスリートとしての姿と、決して諦めない父親としての姿を見ることができたのは、私にとって大きな財産となりました。

試合はその後予選全敗。順位決定戦でも勝利を収めることができず、最下位と世界の壁の高さを痛感させられました。アスリートとして世界各国の選手から学ぶべきことも沢山あり、トレーニングを再開しました。

それでも報道を通じて、パラリンピックやパラアイスホッケーのことを多くの方に知ってもらえることができ、地元高森でもパブリックビューイングをして盛り上げていただきました。応援していただいた皆様に感謝いたします。

まちのとしょかん

平成29年度貸出ランキング

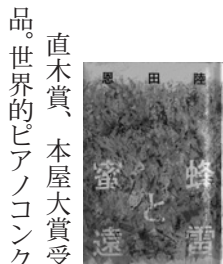
2017年4月から2018年3月までの間に貸し出し回数が多かった本を紹介します。

一般書で上位に入ったのは、ほぼ1年間貸出トップだった話題書と、芥川賞・直木賞受賞作です。あなたの読んだ本はありましたか？気になる本は図書館でチェックしてみてください！

間違っているのでしょうか。

【児童】第1位

『がたんごとんがたんごとん』
安西水丸 作・絵



直木賞、本屋大賞受賞作品。世界的ピアノコンクールを舞台とした群像劇で、頭の中に音楽が流れてきます。

第3位

『コンビニ人間』
村田 沙耶香 著



芥川賞受賞作品。マニュアル化されたコンビニで働くことで普通の人間になれるという主人公の生き方は

【雑誌】第1位

『ESS E2017・4
(春の収納&インテリア改造大作戦)』



読み聞かせグループ

「ぐりとぐらの会」会員募集！

主に絵本の読み聞かせが行っているボランティアグループです。手遊びや語りが得意な方もいるので、それぞれが工夫して例会の時などに情報交換をしながら活動していきます。読み聞かせをした

ことがない方でも、図書館員が相談に乗りながら絵本選びのサポートをします。

人の声でおはなしを聞くと、文字で読むものがある。あなたがたの力で子どもたちに本の世界を開きませんか？

【活動内容】

・町内各小学校で朝の時間に読み聞かせ

・毎月第1月曜日が例会

・その他依頼があれば出張おはなし会も行います。

【問い合わせ】

高森町立図書館
☎ 3519434



さあ、公民館・図書館の時代だ！

図書館の時代だ！

ある講演会の中で、長野県参与である船木成記氏から、2017年にベストセラーとなったリンダ・グラットン著『LIFE SHIFT (ライフシフト)』を紹介された。この本の中で、2007年に生まれた日本人は107歳まで生きる確率が50%であると試算されている。これは今までの「人生80年」を前提として語られてきた、「学生時代を勉強で過ごし、60歳過ぎまで仕事を頑張る、その後は引退

ない価値観が生まれているのだ。

現在、どこの市町村も子どもたちの教育や子育てに重点を置いている。前述の50%である時代を迎える彼らに対して、この分野に力を入れることは重要だ。彼らが大人になる時代は、各人の働き方や生き方は多様性に富み、今では全く考えられ

ない価値観が生まれているのだ。

その時代が良いものになるか悪いものになるかは、今を生きる私たち大人たちの力ではないだろうか。前述の著書の中でも今の40、50代の人に訪れるのは「スキルの価値が瞬く間に変わる時代」であり「手持ちのスキルでよしとせず、新しいスキルの習得に力を注がなくてはならない」として、言い方を変えれば、今の40、50代は、これから起こるだろう「スキルの価値が瞬く間に変わる時代」に最初に足を踏み入れる先駆者（開拓者）となりえる

こう考えると、子どもたちへの教育より、今、重視されるのは「大人の学び」ではないだろうか。常に学習し、変化に対応し、多様な知識に基づいて行動することが必要なのは、大人なことではないだろうか。ここで、これからの公民館や図書館の在り方が問われる。船木氏も「これからは公民館の出番だ！」と言い切っている。

さあ、今こそ大人が学ぶ時代だ。今まで手が伸びなかった本を手取るのも良い、新しい資格を取るのも

